岩盤ボーリング柱状図

調査名　陰平川通常砂防事業に伴う業務委託

事業・工事名

調査目的及び調査対象　砂防　掘削・掘削のり面

ボーリング名	No.5	調査位置	広島県福山市駅町後地	北緯	34° 23′ 41.0147″
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	令和2年 6月10日～ 令和2年 6月11日	東経	133° 22′ 25.9592″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 100.28m	角度	180 上 90 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	10.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機 YBM-05型 / エンジン ヤンマーディゼルNFD-9 / ポンプ 東邦地下工機GP-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	記事
	100.08	0.20		粘土混り礫質砂	暗茶								GL-0.0～6.8m　崖錐堆積物。
1					茶褐								GL-0.0～3.0m　細粒砂～粗粒砂主体でφ2mm～30mmの角礫を多く含み粘土を少量含む。また葉や根が混入する。
2													
3	97.28	3.00		粘土混り砂礫	暗灰茶								GL-3.0～6.8m　φ2mm～30mmの角礫が主体で細粒砂～粗粒砂を多く含む。また少量の粘土を含む。
4													
5													
6													
	93.48	6.80											
7	93.08	7.20		粘板岩	灰白青	w3	h1	C	IV	c	CL	CL[0](100)	GL-6.8～10.0m　基盤岩。
	92.58	7.70			灰茶	w4		D		d	D		
8	92.28	8.00			灰白青			C		c	CL	CL[0](100)	GL-6.8～8.0m　砂岩質優勢の粘板岩で主に角礫状～片状を呈す。亀裂が多く発達しており、亀裂に沿って風化している。岩片はハンマーでたたくと砕ける程度。
9					淡灰青～暗灰青	w3		E	V	d	CL	CL[0](100)	GL-7.3～7.7mは強風化しており、砂状～角礫状を呈す。指で強く押すと軽くへこむ程度。
	90.28	10.00						C	IV	c		CL[0](100)	GL-8.0～10.0m　砂岩質、泥岩質および岩脈が混在した粘板岩で主に角礫状～片状を呈す。亀裂が多く発達し、亀裂沿いに風化している。岩片はハンマーでたたくと亀裂に沿って砕ける。 GL-8.7～8.8mは、風化により砂状～角礫状を呈す。
10													
11													
12													
13													
14													
15													

孔内水位／測定月日：6/11 3.82　6/12 7.30

標準貫入試験

深度－N値図

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
4	1.15	4 / 300		
	1.45			
25	2.15	25 / 300		
	2.45			
7	3.15	7 / 300		
	3.45			
5	4.15	5 / 300		
	4.45			
16	5.15	16 / 300		
	5.45			
9	6.15	9 / 300		
	6.45			
50以上	7.00	50 / 130	130	
	7.13			
50以上	8.00	貫入不能		
50以上	9.00	貫入不能		

原位置試験　室内試験

削孔状況

削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
	0	66／ケーシング	打込み／	0	0	0	W30	0
6/10	75			100	150	1	W30	10
	114		HW／DI	100	150			
6/11	150			100	150			